

問 放置林の寄付は

答 基本的には受ける

伊藤 一郎 議員

問 手入れされていない人工林の寄付を受けては。

市長 基本的な姿勢としては、受け入れる。

問 山崎町高下下牧谷間のトンネルについて

産業部長 平成19年度から整備に入る。総事業費18億2千万円で市負担2億8千万円。農業経営安定のためのもので、経済効果は、年9千9百万円と見込んでいる。

市長 農業経営の効果だけでなく、ここまでは反対しないが、もっと利用度を増す政策が必要だ。

問 医療・少子化・いじめについて

答 努力に努力を重ねる

小林 健志 議員

問 ある末期がん患者が宍粟総合病院で3ヶ月入院され、その後家庭で療養中である。こういった末期がん患者は総合病院に引き続いて入院できないものなのか。

事務部長 病院側で退院を強要することはなく、入院を繰り返される方も病院で最後まで過ごされる場合もある。患者本人が帰宅を希望されるケースもあるが、世話が大変・不安など本人の思いと家族の思いが一致しないケースもある。個々のケースに充実した対応をしていきたい。

産業部長 防除実があり、市も県も連絡協議会を持っています。両者が協力して、各方面の委員による会議にて、作業手順や安全面などの確認をしている。実施前には、安全のための周知を色々な方面より十分にしている。

問 宍粟市の具体的な少子化対策について

市長 子育ての経済的負担の軽減として、小学1～6年生の医療費負担や不妊治療費負担について宍粟市独自の軽減策を検討している。評価・効率性を検証しながら積極的に推進していきたい。

問 いじめ等により、命にかかわることが起きないような万全の対策法を伺う。

教育長 いじめを防ぐとともに、長期的に子ども達に困難や逆境に打ち勝つたくましい心や豊かな想像力を養っていきたい。



問 19年度予算編成方針は

答 総合計画の基本施策に添って

大上 正司 議員

問 18年度予算は、17年度に比し、人件費5%、義務的経費10%、投資的経費30%削減を目標に、8.5%削減の緊縮型予算としたとあるが、19年度予算の基本的な編成方針は。特に次の4項目の考え方は。

市長 19年度予算は、総合計画の6つの基本施策に添い、中長期的に持続可能な行財政基盤を維持する予算としたい。

新庁舎建設に係る工事請負費の予算計上は。少子化対策の強化と独自支援策に係る予算は。敬老祝金、入浴利用優遇措置を見直し、高齢者福祉予算を手厚く。

旧町で取り組んで来た各種イベントを理解し、継続と、助成金を見直しを。

合併後、2年間をキツチリ検証し、合併してよかったと喜び合える一ぬ

